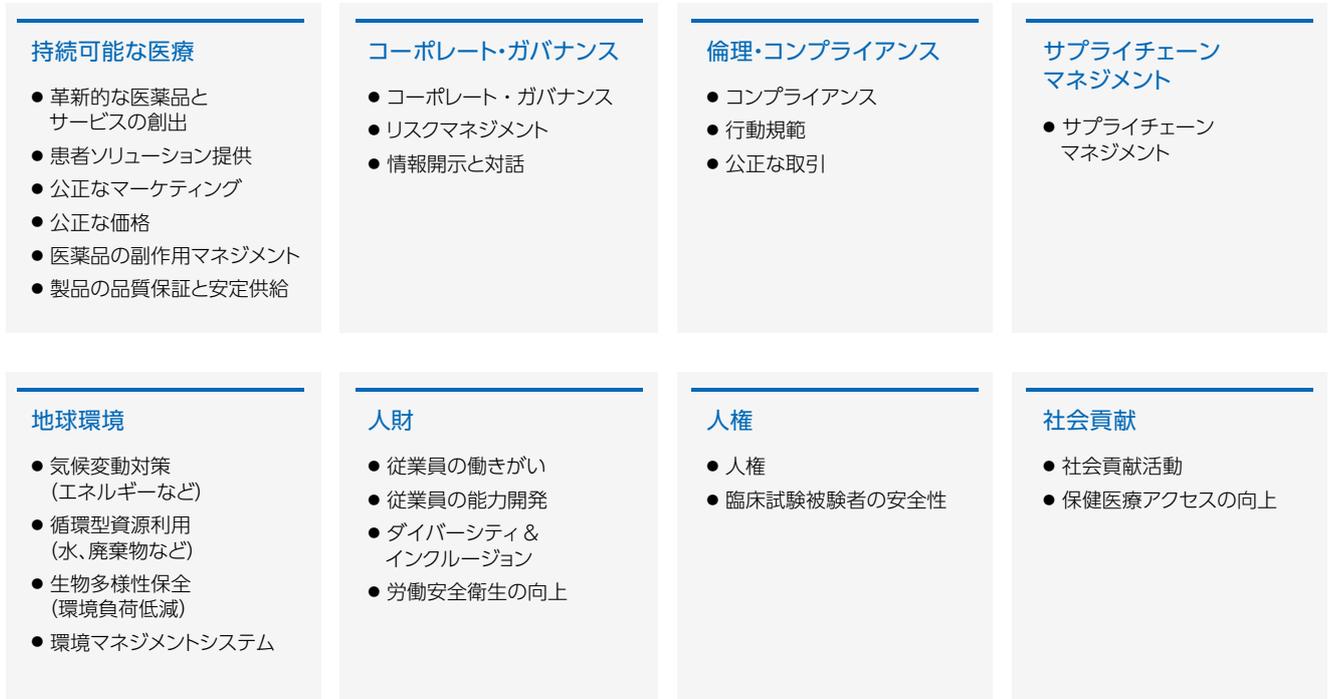


マテリアリティの目標と進捗

マテリアリティ 重要課題の特定



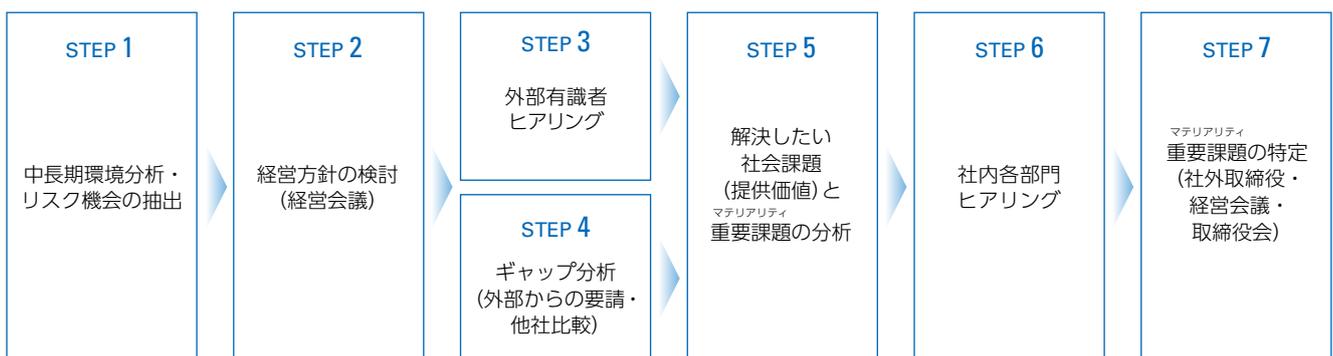
中外製薬では、経営の基本方針として掲げる「共有価値の創造」を進めていくうえで、重点的に取り組むべき事項を、25項目の重要課題（マテリアリティ）として策定しました。

策定にあたっては、将来にわたる環境展望・分析を踏まえ、SDGs、各種外部イニシアチブやガイドラインを参照・検証し、社会から期待され求められる課題を網羅的に抽出しながら、中外製薬が十分に満たせていない事項なども精査。外部視点を取り入れ、客観性のある分析を行うとともに、目指す姿（Envisioned Future）の実現に向けた課題というスコープで整理しています。

また、それぞれのマテリアリティには、中長期的に成し遂げたい目標と、それぞれの進捗・達成度合いを測るための評価指標も設定しています。これは、中外製薬の注力事項を社会と共有し、今後の対話につなげていくことを目的としています。

なお、これらのマテリアリティ項目は、環境変化や中外製薬の事業活動の進展によって可変のものであり、定期的に見直しを行うこととしています。2020年には、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の影響を踏まえるとともに、新成長戦略策定に向けて再検証しましたが、マテリアリティには変更がないことを確認しました。

マテリアリティ 重要課題の策定プロセス



目標と2020年までの進捗

5つの戦略 (IBI 21) **1** Value Creation **2** Value Delivery **3** 個別化医療の高度化 **4** 人材の強化と抜本的な構造改革 **5** Sustainable基盤強化

重要課題	目標	5つの戦略	指標(2020年実績)	IBI 21期間の成果(2019-20年実績)
持続可能な医療				
革新的な医薬品とサービスの創出	革新的医薬品の創製	1 3	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品発売・適応拡大数(9つ) ● 個別化医療に基づく開発プロジェクト数・製品数 ● ポートフォリオインしたプロジェクト数 ● PoC取得した自社品プロジェクト数 ● LCMステージ移行した導入品プロジェクト数 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中分子プロジェクト:2021年P1開始に向け計画通りに進捗 ● 抗体プロジェクト:次世代抗体技術を用いたスイッチ抗体(STA551)のP1開始 ● クロバリマブ/SKY59のP3開始 ● エンスプリング承認取得・販売開始 ● 計5つの前臨床ステージ移行 ● ネモリズマブのアトピー性皮膚炎の国内申請(マルホ社)、結節性痒疹のBTD取得(ガルデルマ社)
患者ソリューション提供	患者中心の医療の実現	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 治療領域シェア(がん領域1位*1、血友病領域1位*1) ● 顧客満足度(がん領域1位*2、血友病領域1位*3) ● MR1人当たり国内売上高(1位*4) ● がんゲノム医療への貢献度(1位*5) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヘムライブラ:国内外での市場浸透、海外承認国数の伸長 ● テセントリク:3つのファーストインクラスを含む適応拡大の進展 ● CHUGAI DIGITAL VISION 2030策定 ● 全社デジタル戦略の進展とAI創薬等の取り組み加速 ● F1CDxの順調な市場導入、適応拡大 ● F1Lの承認申請の実施 ● リアルワールドデータを参考資料として用いたロズリートレクのROS1申請 ● 子宮内膜症に伴う痛みを客観的に評価するデジタルソリューションの共同開発
公正なマーケティング	各国のガイドラインを遵守したマーケティング	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外における販売情報提供活動のpromotional code of conduct違反なし(達成) ● 医療用医薬品等にかかわる情報提供ガイドラインの整備と社員教育の実施(達成) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外子会社のガバナンス強化:中外グループ管理ガイドラインの理解浸透、自律的なコンプライアンス体制強化 ● 中国事業体制の構築・強化:関係会社間の連携強化、本社支援体制の充実 ● 中国における薬制管理法変更への対応 ● 販売情報提供活動に関するガイドライン策定と社内モニタリング体制整備 ● 患者およびその家族等からの求めに応じた情報提供ガイドライン策定
公正な価格	医薬品とサービスの価値に応じた価格	2	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 新薬(ロズリートレク、エンスプリングなど)の価値に応じた適切な薬価の取得
医薬品の副作用マネジメント	適切なファーマコビジランス活動の実施と医薬品の適正使用の推進	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 顧客満足度(がん領域1位*2、血友病領域1位*3) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3本部連携での顧客インターフェースのデジタル化推進 ● 医療者向け副作用データベースツールをリリース
製品の品質保証と安定供給	製品とサービスの品質の確保と安定供給	5	—	<ul style="list-style-type: none"> ● COVID-19感染拡大に伴うアクテムラを含む製品の安定供給体制の維持 ● FMIなど新ビジネスへの対応などを含めたグローバルレベルの品質維持・強化
コーポレート・ガバナンス				
コーポレート・ガバナンス	持続的な成長と企業価値の向上の実現	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役会の実効性評価 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部第三者(法律事務所)による、取締役会の実効性に関する分析・評価の実施
リスクマネジメント	リスク評価と対応策の実行	5	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 戦略リスク管理を含むERMのフレームワーク導入 ● ITシステムによるリスク情報の全社的な一元管理 ● 事業継続マネジメント(BCM)ガイドラインの策定

*1 Copyright© 2021 IQVIA. 出典:医薬品市場統計 2020年暦年(1月~12月)をもとに作成 無断転載禁止 市場の範囲は中外製薬定義による *2 インタージェヘルスケア「オンコロジー領域CS調査2020」当社定義による医師を対象とした企業総合評価に関する調査結果に基づく *3 インタージェヘルスケア「血友病領域CS調査2020」当社定義による医師を対象とした企業総合評価に関する調査結果に基づく *4 富士経済「2020 医薬品マーケティング戦略」より中外製薬が算出 *5 Copyright© 2021 IQVIA.「がんゲノム医療に関する顧客満足度調査」当社定義による医師を対象とした企業総合評価に関する調査結果に基づく 調査対象:「医療情報専門サイト m3.com会員に対するインターネット調査」

重要課題	目標	5つの戦略	指標 (2020年実績)	IBI 21期間の成果 (2019-20年実績)
コーポレート・ガバナンス				
情報開示と対話	適切な情報開示による市場からの信頼確保	5	<ul style="list-style-type: none"> DJSI World構成銘柄への選定 (達成) 	<ul style="list-style-type: none"> ESG説明会の毎年開催によるステークホルダーとの対話促進 IR外部評価の向上
倫理・コンプライアンス				
コンプライアンス	適切なコンプライアンスリスクの管理	5	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスモニタリング実施 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外各組織のコンプライアンスアクションプランの進捗状況の確認 国内外関係会社を含む全社コンプライアンス状況の把握を目的としたモニタリング調査の実施 国内外グループ全従業員を対象にコンプライアンス意識調査の実施
行動規範	中外製薬グループコード・オブ・コンダクト (CCC) の理解、浸透活動	5	<ul style="list-style-type: none"> 国内全組織CCC・人権研修実施:2回/年 2019年受講者数:100%*1 2020年受講者数:100%*1 	<ul style="list-style-type: none"> 新経営方針の策定に伴う行動基準の改定 (中外製薬グループコード・オブ・コンダクトへの改定) 中外製薬グループ全社員への教育実施
公正な取引	取引に関する法令遵守とともに公正で透明な関係構築	5	<ul style="list-style-type: none"> 関連ポリシー・規程類の整備および社員教育の実施 (達成) 	<ul style="list-style-type: none"> 購買ポリシー、購買関連規程類の整備および子会社展開の実行 購買ポリシーの購買関連システムへの反映完了および社員教育の実施 公正な競争に関するポリシーに関連する規程類の整備および社員教育の実施
サプライチェーンマネジメント				
サプライチェーンマネジメント	包括的サプライヤー評価を実施	5	<ul style="list-style-type: none"> 主要製造委託先のリスク評価実施 	<ul style="list-style-type: none"> PSCI (Pharmaceutical Supply Chain Initiatives) への加盟 サプライヤー・コード・オブ・コンダクトを策定し、取引先からの同意確認を開始 (2020年31件) 取引先のEHS・コンプライアンスリスク評価ガイドラインの策定、取引先のリスク評価を開始 (2020年86件) 取引先のEHS・コンプライアンスリスク評価ガイドラインの社員教育の実施 製造委託先との情報交換会開催
地球環境				
気候変動対策*2 (エネルギーなど)	地球環境への影響を最小限に抑制	5	<ul style="list-style-type: none"> 従業員1人当たりエネルギー消費量削減:2010年比20% (17%削減*3) 特定フロン使用廃止 (達成) 営業車両の平均燃費削減:16 km/L以上 (27 km/L) 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー見える化システム導入による効率的な高エネルギー効率設備導入と省エネ施策推進 2018年の保有特定フロン4トンを2020年までにすべて使用廃止 営業車両へのハイブリッドカーおよび高燃料効率車の導入を推進
循環型資源利用*2 (水、廃棄物など)		5	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物ゼロエミッション (廃棄物再資源化率99%以上):3事業所 (2事業所で達成) 	<ul style="list-style-type: none"> 再資源化可能な産業廃棄物処理業者の優先的な選定と再資源化率向上の推進
生物多様性保全 (環境負荷低減)		5	<ul style="list-style-type: none"> Whole Effluent Toxicity (WET) 試験による排水測定:5事業所 (5事業所で実施) 	<ul style="list-style-type: none"> すべての工場・研究所における年1回のWET試験を2013年より継続実施、問題がないことを確認
環境マネジメントシステム		パフォーマンスデータの第三者保証	5	<ul style="list-style-type: none"> 検証項目および対象範囲拡大

重要課題	目標	5つの戦略	指標(2020年実績)	IBI 21期間の成果(2019-20年実績)
人財				
従業員の働きがい*4	働き続けられる環境整備	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 有給休暇取得率80%以上(65.6%)*5 ● 在宅勤務制度利用率35%*6 ● 社員意識調査(「社員エンゲージメント」「社員を活かす環境」肯定回答率の向上) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員意識調査結果の改善(2018年比) ● 生産性向上とワークライフシナジーを実現する新しい働き方(スマートワーク)の策定(2021年導入)
従業員の能力開発	戦略実現とイノベーション創出加速に向けた人財発掘・育成	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代リーダー候補の拡大、育成実行 	<ul style="list-style-type: none"> ● キーポジション(基本組織長)候補者の選抜、育成 ● 高度専門人財の登用 ● 次世代リーダー候補人財の個別育成計画の見直しと戦略的配置の実行
ダイバーシティ&インクルージョン*4	多様な人財による新しい価値の創出	4	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性管理職比率:16%(14.6%)*7 ● 女性マネジャー比率:15%(13.0%)*8 	<ul style="list-style-type: none"> ● 女性執行役員の登用 ● 経営トップを含む各部門長からなる女性マネジャー登用促進会議の開催 ● D&I推進のキーパーソン(マネジャー800名)向け無意識バイアスe-ラーニングの実施
人権				
人権	事業活動に関係するすべての人々の人権を尊重	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 委託先人権デューデリジェンスの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権尊重に関するポリシーの策定 ● 「ビジネスと人権」および人権尊重に関するポリシーの社員教育の実施 ● 人権課題の特定 ● 取引先の人権尊重に関する評価ガイドラインを策定し、取引先のリスク評価を開始(2020年86件) ● 人権尊重の取り組みについて、海外の有識者と個別のダイアログを開催
臨床試験被験者の安全性	安全性の確保、高い倫理性と科学性を持った臨床試験の実施	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者自身による有害事象評価ツールの導入 ● 在宅デバイスを用いた被験者の安全性確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● パイロット試験として固形がんを対象とした3つの第1相試験で準備を完了し、1試験で実装開始 ● 在宅デバイスによる安全性指標測定を1試験に実装し、課題等を把握
社会貢献				
社会貢献活動	重点分野での社会連携	5	<ul style="list-style-type: none"> ● 在宅福祉移送サービスカー累計寄贈台数(263台) 	<ul style="list-style-type: none"> ● COVID-19感染拡大に伴う国内医療関係者への支援:日本財団、東京都と神奈川県に総額5,500万円を寄付 ● 復旧支援:令和台風(19号)被災地へ1,000万円、令和2年7月豪雨被災地へ1,000万円を寄付
保健医療アクセスの向上	医薬品の開発を含む保健医療へのアクセス向上	5	<ul style="list-style-type: none"> ● カンボジア NPOジャパンハートこども医療センターの医療関係者を対象としたチーム医療WSの参加人数(21人) ● ミャンマー農村部におけるNCDs*9の診断および治療支援の拠点数と受診者数(28カ所、約2,500人) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ミャンマー住民のNCDs診断による早期治療・フォローアップの推進 ● ミャンマー妊産婦のための搬送基金設立と超音波診断装置の供与 ● 世界血友病連盟(WFH)を通じた、開発途上国へのHemlibra提供 ● City Cancer Challenge Foundationとの連携開始

*1 出向者、休職者を除く *2 2020年末到達目標 *3 グリーン電力証書の使用により非再生可能エネルギー消費量として20%削減予定 *4 2021年末到達目標
 *5 2019年4月～2020年3月実績 *6 緊急事態宣言下で原則在宅勤務に変更 *7 中外製薬株式会社(単体)の在籍者に基づいて算出
 *8 中外製薬株式会社(単体)および国内関係会社の在籍者に基づいて算出 *9 NCDs:非感染性疾患